

第 1 回懇談会における主な意見

1 改築・複合化について	2 杉並第一小学校の改築にあたって
(1) 複合化のあり方について <p>○複合化する施設の建て替えの必要性、課題は理解するが、どのようなコンセプトでこの3施設を一つにするのかを明確にする必要がある。</p> <p>○複合化を教育にとって良きものとし、互いに相乗効果を発揮できる施設とする。</p> <p>○50年先を見据えて、子どもたちが校舎を使っていかに学ぶか、複合する施設を使って地域が活動し、いかに発展するかを考えていきたい。</p> <p>○建設する複合施設は、50年先のこの地域の初等教育はどういう教育環境の下で行われるのがよいかという視点が大切である。</p> <p>○まちづくりで将来のことを考える上で、コストは非常に重要な要素。区が公共施設の複合化を図り、維持管理費を削減していくことを考えれば、いかに効率的に新しい学校、公共施設を作っていけるか知恵を出していきたい。</p> <p>○全国的にも学校の複合化事例は増えてきている。そうした事例も参考としつつ、コンセプトづくりを行っていったほうがよい。</p> <p>○複合化が決まっているが、第一義的にはより良い学校施設をつくるのが大切である。なお、耐震補強も近年行っており、建築費が高騰していく時期に向かう中で、建設時期を考慮する視点も必要と思う。</p>	(1) 多様な教育に対応できる学習環境の整備 <p>○学校の教育環境が最優先であり、校庭は現在の1.5倍にはしたい。建物のボリュームを考えながら進めていく必要がある。</p> <p>○運動会や体育の授業では、思いっきり直線を走れる校庭としたい。</p> <p>○一番に考えるべきは子どもたちの教育環境。狭い校地の中で、地域の教育力を活かし、人気がある学校づくりを進めてきたので、それが活かされる施設としたい。</p> <p>○現在の教育環境を使っていかによい教育をしたらよいか取り組んできたが、教育を成せるためには、どういう施設が必要かということを考えていきたい。</p> <p>○教育こそが日本の最大の資源であり、それが実現できる改築であるべき。</p>
(2) 杉並第一小学校ならではの複合化 <p>○杉一小は、今後の地域に開かれた学校、初等教育のあり方の一つのモデルを提示している。どのようなコンセプトで複合施設をつくるのかということは、全国の教育関係者やまちづくり関係者が大変注目する施設となる。</p> <p>○学校と地域が密に付き合いができていく地域。複合化を図ろうとしている施設の良し悪し、周辺にある児童館なども含めて、数十年後の阿佐谷地域を見据えて、小学校を中心とした施設をどうしていくかというコンセプトをしっかりとすることが大変重要である。</p> <p>○杉並区の教育の基本目標を達成できるような、杉並区の教育のランドマークとなるような施設としたい。</p> <p>○区民センターや産業商工会館の集会機能をどう学校の役割の中に組み込むか、狭い校地に存在する体育館やプールを建物に組み込み校庭面積を確保するなど、オープン化という観点で考えていく必要がある。</p> <p>○複合化というとマイナス面もあると思うが、やり方によってはプラス面も出てくる。杉並区は全国から注目されていくことになるので、さすが杉並区という子どもたちが良かったと思える学校をつくっていきたい。</p>	(2) 安全・安心で、快適に過ごせる学習・生活空間の整備 <p>○施設を使うのは子どもたち。学校を使っていて、すごく楽しかったと良い思い出がたくさん作れる施設をつくりたい。</p> <p>○動線などに配慮し、子どもたちが将来にわたり、地域のために役立っていけるような空間ができればよい。</p> <p>○他の機能との複合化による学校との住み分けや学校にいる間の動線など、子どもたちの安全性を確保した施設づくりが必要。</p>
	(3) 地域に開かれた学校づくり <p>○良い地域の中で、地域の方たちと一緒に小学校を再構築し、よい子どもたちを育てていきたい。</p> <p>○「朝先生」、「すぎっ子くらぶ」、「土曜授業」など、積み上げてきた素敵な取組を継続できる施設づくりをしていきたい。</p> <p>○複合施設だが教育第一に考え、子どもたちをもちろんのこと建物全体が多世代の学びの場になってほしい。</p>
	(4) 災害時の地域の防災・復旧の拠点としての整備 <p>○高円寺、阿佐谷地域は、防災上課題のある地域でもあるので、災害時の地域の防災拠点としての施設づくりという視点も考慮する必要がある。</p>
	3 複合する新たな施設の整備にあたって
	(1) 集会機能の集約による規模のスリム化、施設運営の効率化 <p>○阿佐谷地域区民センターは、稼働率、利用率が高い施設だが、複合化ということでどんどん色々なものを積み上げずに、教育メインの施設と地域の方たちにサービスが提供できる施設づくりに期待する。</p>
	(2) 交通至便な立地を生かした利用者の利便性の向上 <p>○学校は、子どもたちが育っていくという意味で欠かせない空間であり、いわばインフラ施設。杉一小の立地は、都市的な空間にあり、通常の住宅地にある学校とは性格が異なる中でどう作り変えるかが重要である。</p>
	(3) まちづくりと連動した地域の活性化 <p>○阿佐谷地域区民センターと産業商工会館を利用していた人たちの商圈が変わることが想定されるが、阿佐谷地域全体が良くなり、地域の人たちや学校を利用する人たちにとって良い施設になればよい。</p> <p>○学校と隣接する商業施設や病院、神社、寺などと地下を共有するなど、もう少し改築に関して様々検討する必要がある。</p> <p>○近隣の病院の建て替えという課題もあるので、地域全体を考え、阿佐谷の地域構想についてももう少し議論したほうがよいと思う</p>